



しおかぜ通信

学校教育目標「自ら学ぶ子供」 R7,6,18 No,9

八代市立郡築小学校
校長 村嶋 博史



郡築小ホームページ

今年度は「食育」に重点を置いています

今年度、本校は「食育」推進校として、八代市教育員会から委嘱を受け、「子供たちが『食』に関する様々な経験を通じて、『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる」ことを目的に学校総体で計画的に取り組んでいるところです。

具体的には、家庭科や生活科などの教育活動の他、郡築小校区婦人会やJA青壮年部、JA女性部、西部給食センター、株式会社明治、醤油情報センター、カルビー株式会社、株式会社ヤクルト、株式会社にんべんなどの関係機関と連携し、子供たちに「食」に関する様々な経験を積ませる中で、食育の視点である「食事の重要性」、「心身の健康」、「食品を選択する能力」、「感謝の心」、「社会性」、「食文化」に係る学びを深めさせ、健全な食生活に向けた実践力を培おうとしています。

トウモロコシの皮むき体験をしました（食育）

令和7年6月4日（水）、1・2年生は「トウモロコシの皮むき体験」をしました。このトウモロコシの皮むき体験は、上述した「食育」の一環として、西部給食センターと連携して行ったものです。

この体験の主な目的は、「感謝の心」（これまで何気なく食べていた「トウモロコシ」について知ることで、生産者への感謝の気持ちをもたせる）と、「食文化」（実際に触れ、皮むき体験をすることで、八代の地元で作られている「トウモロコシ」という食材に親しみをもたせる）、「食事の重要性」（食事が私たちの心身の成長や健康に不可欠であることを理解し、食事をすることの喜びや楽しさを知らせる）ことです。

子供たちが皮をむいたトウモロコシは、その日の給食に出され、子供たちはおいしそうに食べていました。



田植えを体験しました（食育）

令和7年6月4日（水）、3・4年生は田植えを体験しました。この田植え体験は、JA青壮年部の方々のご協力のもと毎年行われていますが、今年度は、食育の視点である「感謝の心」（食べ物を大事にし食料の生産等に関わる人々へ感謝心をもたせる）や「食文化」（各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し尊重する心をもたせる）、「食事の重要性」（食事が私たちの心身の成長や健康に不可欠であることを理解し、食事をすることの喜びや楽しさを知らせる）などの目的を加えて実施しました。



子供たちは、JAの青壮年部の方々のご指導のもと、ぬかるんだ土に足を取られながらも稻を一株ずつ丁寧に手植えしていました。JA青壮年部の方々には、先日の稻の種植えをはじめ、田の耕しや水の管理など大変お世話になりました。また、今後の稻づくりに係るご指導もよろしくお願ひします。

～あいさつで豊かな人間関係を育んでほしい～

毎朝、校門に立って、子供たちを「おはようございます」の挨拶と共に迎えています。最近では、約半数の子供から「おはようございます」と気持ちのよい挨拶が返ってきます。中には、自ら「おはようございます」と明るい声で挨拶をする子供もいて、なんとも清々しい気持ちになります。

自分から心を開いて、相手に迫りお近づきになる行為である「あいさつ」が、全ての子供たちに浸透し、将来明るく豊かに社会生活を送ってほしいと願って、今後も「おはようございます」を言い続けます。